

2025年日本国際博覧会 トイレ4



外観

日本国際博覧会において、若手建築家が設計したトイレ施設のひとつ「トイレ4」は、人、植物、環境を土の壁でつなく峡谷のような形状。自然素材である土を独自配合で大型3Dプリンターにより出力、外壁などを構成した。



エントランス

男女別トイレに行く途中のエントランスに設けられた、バリアフリートイレとオールジェンダートイレの入口は、万博の大屋根リングから直接視界に入らない位置に設置され、視線への配慮がなされている。

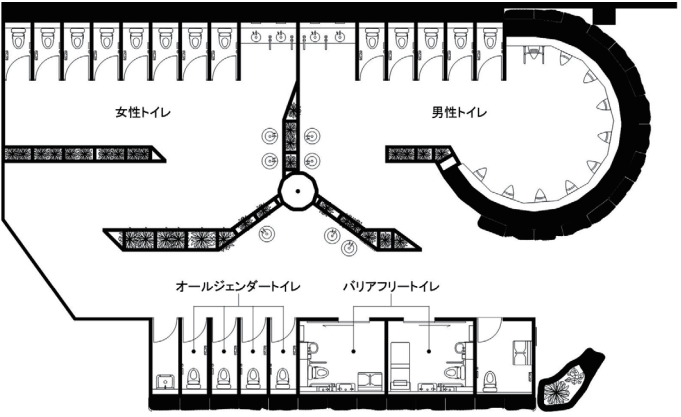


洗面コーナー

オールジェンダートイレの向かいには、性別に関わらず手洗いができる洗面コーナーを設置。さらに、身繕いにも配慮し全身鏡が設けられている。

図面

バリアフリートイレとオールジェンダートイレは、男女トイレに行く途中のエントランスに複数設けられ、アプローチしやすくしている。



バリアフリートイレ・  
オールジェンダートイレ

バリアフリートイレとオールジェンダートイレは、それぞれ複数設置されており、各ブース入口に対象・仕様をピクトグラムで表示。利用しやすい環境が整えられている。



バリアフリートイレ

車いす使用者やオストメイトに配慮したスペースを確保し、必要な器具をパッケージしたコンパクト・バリアフリートイレパックを設置。さまざまな身体状況の方に配慮し、パブリック用折りたたみシートも完備している。



オールジェンダートイレ

大便器は、混雑緩和に配慮し、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置。便座は、便器ボウルをきれいに保つ「きれい除菌水」を搭載したウォシュレットアプリコットPを採用している。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲（ゆめしま）で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ4」は、人、植物、そして環境を土の壁でつなく、峡谷のような自然の形状をイメージした建物。自然界の形から抽出した有機的な形態の壁を、各地域の土地からとれる土を独自の配合により、大型の3Dプリンターで出力し、外壁やランドスケープを構成。出力された壁の中は空洞になっており、上部はプランターのように利用されている。これらを依り代として人々が集まり、自然との共生や循環について考え休息する、現代の人間の巣のような建築像と社会を提示している。

トイレの特長

「トイレ4」は、バスが発着する会場の西ゲートに近く、万博の大屋根リングに面した場所に位置することから、そこからの視線に配慮したトイレ空間となっている。バリアフリートイレとオールジェンダートイレは、男女別トイレに行く途中のエントランスに複数設けられており、アプローチしやすくなっている。大便器にはフラッシュバルブ式と同様に連続洗浄が可能で、混雑緩和に寄与するパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式、便座には便器ボウルにきれいに保つ「きれい除菌水」を搭載したウォシュレットアプリコットPを採用。小便器は、シンプルなデザインと節水機能を両立した壁掛型の自動洗浄小便器を設置。トイレ空間は、「トイレ4」全体の自然な雰囲気と調和する内装となっている。

建築概要

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 名称    | 2025年日本国際博覧会 トイレ4                     |
| 所在地   | 大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20 (2025年日本国際博覧会会場内)  |
| 施主    | 公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会                 |
| 設計    | 浜田 昌則／株式会社浜田昌則建築設計事務所<br>AHA 一級建築士事務所 |
| 竣工年月  | 2025年3月                               |
| 延床面積  | 138.63㎡                               |
| 構造・階数 | 木造・地上1階                               |

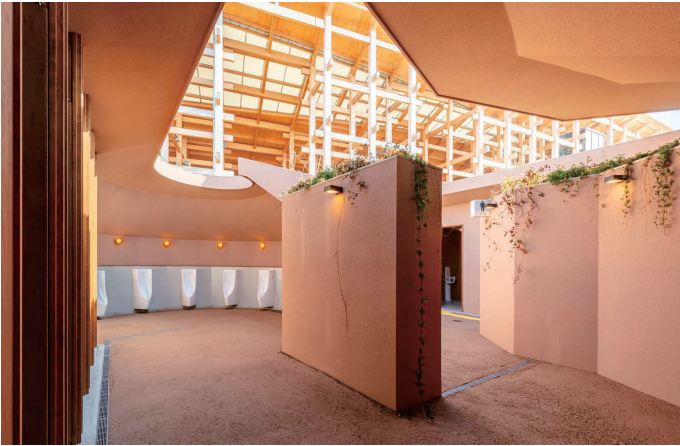
おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B  
ウォシュレット アプリコットP (擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5831AUP  
自動洗浄小便器:UFS900WR  
コンパクト・バリアフリートイレパック:UADAK21R1A1ADD2BA  
パブリック用折りたたみシート:EWC500R系



女性トイレ

大便器は、混雑緩和に配慮し連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。ゆとりのある通路幅を設けることで、混雑時にも空き状況をひと目で確認することができる。



男性トイレ 全体

半屋外のトイレ空間となっており、上からの風が抜ける開放的な空間。男性トイレの通路から大屋根リングを眺めることができる一方で、小便器コーナーは外部からの視線が届かないようにレイアウトを工夫している。



男性トイレ  
小便器コーナー

使用者の視線が自然に交わることがないよう円形に配置された小便器コーナー。シンプルなデザインと節水機能を両立した壁掛型の自動洗浄小便器を設置している。